

させていただきます。まず、冒頭の医師会常任理事の小森貴先生のお話では、医師会が真剣にこの問題に取り組んでいるということ、国民の真の幸せを願っているのだというメッセージがよく伝わりました。これからもその路線で活動していただけることを一国民として強く望みます。

東北大学の取り組みの発表では研究生である医師の子どもも保育園に入所できるように証明書を発行するという配慮や県内開催の学会での保育の援助助成が優れていると思いました。過去に私どもの施設で病後児保育所を開設するにあたり、東北大学の施設を見学させていただき大いに参考になった経緯があり、これからも制度や設備の充実のために先行事例として学ばせていただきたいと思いました。

岐阜大学の発表ではキャリア教育の内容が優れていると感じました。担当されている清島真理子教授はご専門が私と同じ皮膚科であることから、日頃からお互いの女性医師支援の活動内容の情報交換をさせていただいており、大変ありがたく思っています。

九州大学の事例では研究補助者措置制度に注目しました。北海道でも最近、北大が中心となって女性研究者の研究助成の取り組みが始まり、旭川医大も参画させていただけることになりました。九大の取り組みを大いに参考にしたいと思いました。

今後もこのような全国規模の会合の開催が継続されることを希望します。

大学医学部女性医師支援担当者連絡会に参加して
旭川医科大学子育て・復職・介護支援センター
皮膚科 菅野 恭子

この度は日本医師会主催の男女共同参画のセミ

ナーに参加させていただきました。当院の子育て・復職・介護支援センター（二輪草センター）は平成19年に医療人GPに採択され現在に至るまで着実に成長し機能しております。私は育児中も市内の病院で皮膚科勤務医としてフルタイムの仕事をしていましたが、今年から二輪草センターの助教に就任させていただきました。まだ日が浅いのですが、これまでの経験を活かすことができ、日々やりがいを感じております。

本セミナーに参加することで日本医師会の女性医師支援に関するさまざまな取り組みについて知ることができました。日本医師会女性医師バンクが開設されたことは知っていましたが実際にどのように機能しているのかを知る良い機会でした。また各大学での取り組み事例の発表ではさまざまな工夫がみられ、今後当センターでも取り入れてみたいものが多々ありました。今回の会を通して職場はもとより医師会など多方面における女性医師のサポートシステムが確立されてきている今、個々人のプロ意識と仕事を継続していく強い意志が要求されていることを再認識しました。

意見交換会では他施設の担当の素敵な先生方とご挨拶し名刺交換ができましたことが収穫でした。この機会に今後もいろいろな面で情報を交換できるのではないかと思います。参加者名簿を拝見しますと皮膚科医が多いことに気がきました。名高い先生方と共通の問題意識を持って集まることができたことを大変光栄に思いました。

今後女性医師問題が解決することで地方の医師不足や医師の偏在が少しでも改善し、女性のみならず医師全体が働きやすい体制になるよう日々問題意識をもって取り組んでいきたいと思えます。

電子メールによる会員への情報提供について

—メールアドレスの登録—

◇情報広報部◇

本会では、インターネットを利用し、電子メールにより緊急性の高い情報を、会員の皆様へ送信提供しております。対象は当会の電子メールアドレス利用者全員と他プロバイダの電子メールアドレスをお持ちになっていて、本会にアドレスを登録している会員です。

他プロバイダの電子メールアドレスの登録につきましては、随時受け付けておりますので、是非ご登録いただきたくご案内いたします。

●電子メールアドレスの登録方法

電子メールで、ご氏名、登録メールアドレスを明記のうえ、下記宛お送りください。

・申込先メールアドレス：add@m.dou.jp